2026 年２月 17 日
住友生命保険相互会社

スミセイ「わが家の防災アンケート」2026

～５割超がクマの被害に不安、南海トラフの危機感薄まり防災対策費減少か～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳）は、家庭の防災対策の実態や意識に関するアンケートを実施しました。東日本大震災から 15 年、防災意識向上のために継続してきた本調査も今回で 11 回目となります。

2025 年は青森県東方沖地震や豪雨・暴風雨・大雪等の自然災害の他、全国的なクマ被害や大規模火災が発生しました。2026 年に入ってからも、記録的大雪が猛威を振るっています。

被災された皆さまにはあらためまして謹んでお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興とご健康を、心からお祈り申し上げます。

◆調査結果の概要（詳細は別紙）

○５割超がクマの被害を不安視。しかし、対策は約１割と進まず（３～８ページ）

・クマの被害への不安は５割超（53.5%）に上る一方、対策をとっているのは約１割（10.6%）のみで、多くの人は緊急性を感じていないことがうかがえる。

・対策（とっている・とる予定）のトップは「クマの出没情報の収集」（49.6%）で、２割以上が行動の制限（外出時間の変更、単独行動を控える）や、住宅まわりの整備（誘因物の適切な管理、草刈り）を挙げた。

○最も備えが必要だと思う災害は「地震」。年間の防災対策費（平均）は 9,545 円で前年から約７千円減少、十分な対策には約２万円不足（９～15 ページ）

・将来、自然災害で被災する可能性が高いと考えているのは約５割（48.5%）。

・最も備えが必要だと思う災害は「地震」（72.7%）で、青森県東方沖地震で被害を受けた北海道・東北の数値が前年から増加した（北海道 14.2pt、東北 9.2pt 増）。

・防災対策未実施者は約４割（39.1%）に上る。

・年間の防災対策費は 9,545 円で、「南海トラフ地震臨時情報」の影響を受けた前年から 6,811 円減少し、危機感の希薄化が見られる。また、十分な対策をとるための費用（27,908 円）には 18,363 円不足した。

・ライフライン停止時における在宅避難対策を「講じている」は６割超（63.2%）で、在宅避難可能日数は「３日分」（34.2%）が最多だった。

○災害時、避難指示発令時でも“避難しない”は約５割。避難所の課題は（16～17 ページ）

・「警戒レベル４ 避難指示」発令段階でも約５割（49.3%）は避難しない。

・避難所に避難しない理由として、トイレ・お風呂の不安（衛生面・使いやすさ）や、プライバシーの確保が難しい点が挙げられた。

別紙

【　調査概要　】

１．調査期間　：2026 年１月６日～１月８日

２．調査方法　：インターネット応募による選択方式および自由記入方式

３．調査対象　：1,000 人（全国の男女各 500 人）

調査対象者の内訳（人）

	男性	女性	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	全体
北海道地方	27	32	11	13	9	13	13	59
東北地方	27	26	13	16	11	8	5	53
関東地方	212	196	92	80	78	78	80	408
中部地方	66	75	28	35	22	27	29	141
近畿地方	98	113	32	32	54	45	48	211
中国・四国地方	28	25	10	8	14	12	9	53
九州地方	42	33	14	16	12	17	16	75
合計	500	500	200	200	200	200	200	1,000

北海道地方　：　北海道
東北地方　：　青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県
関東地方　：　茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県
中部地方　：　新潟県・富山県・石川県・福井県・山梨県・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県
近畿地方　：　三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県
中国・四国地方　：　鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県
九州地方　：　福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

【　目次　】

１．災害級のクマによる被害・大規模火災の発生
　ａ．クマの被害への備え　……　３～５
　ｂ．火災への備え　……　６～８
２．自然災害で被災する可能性　……　９
３．最も備えが必要だと思う自然災害　……　10
４．家庭の防災対策
　ａ．防災対策費の理想と現実　……　11
　ｂ．実施している家庭の防災対策　……　12
　ｃ．今後、実施しなくてはいけないと思う防災対策　……　13
　ｄ．防災対策未実施の理由　……　14
　ｅ．ライフライン停止時における在宅避難の対策　……　15
５．避難準備・避難行動
　ａ．避難準備・避難を行うタイミング　……　16
　ｂ．避難する場所　……　16
　ｃ．避難しない理由　……　17

【　調査結果　】

１．災害級のクマによる被害・大規模火災の発生

2025 年は、クマの出没件数が過去最多となり、市街地や人里、冬に入っても冬眠しないクマが出没し、人身被害が深刻化しました。また、住宅や林野において大規模火災が多発し、甚大な被害をもたらしました。これらは継続発生する可能性が高く、今後の対応が問われています。

ａ．クマの被害への備え

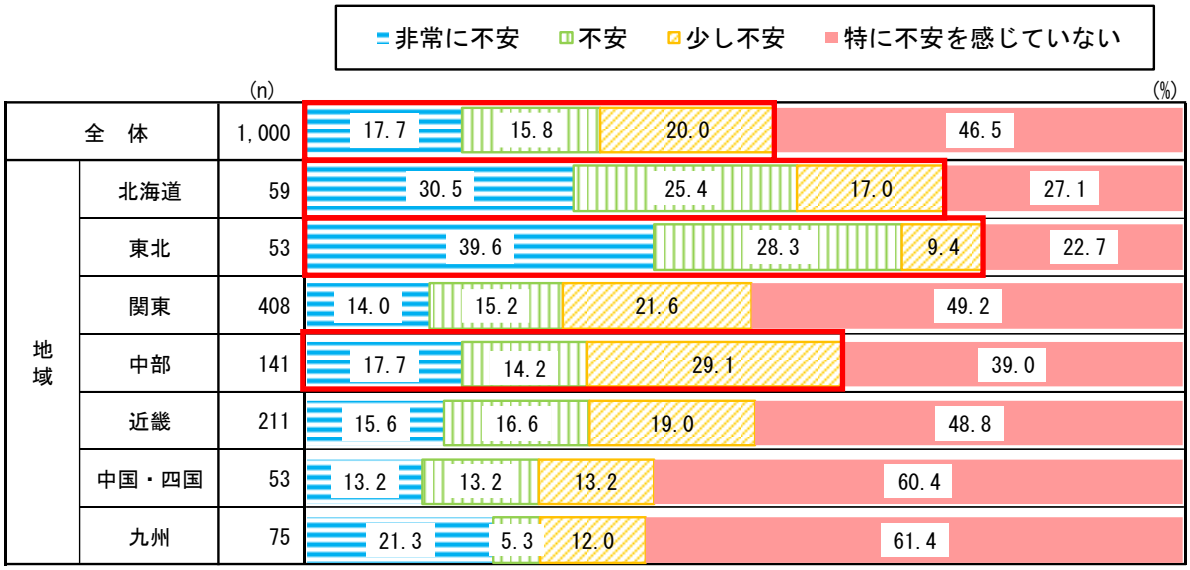
環境省が公表した 2025 年のクマによる人身被害件数※では、東北が 146 件と他エリアと比べて突出しています 。そのため、“クマの被害に対する不安がある”は、全体が 53.5%（「非常に不安」（17.7%）、「不安」（15.8%）、「少し不安」（20.0%）の計）であるのに対し、東北は約８割（77.3%）で最多となりました。また、北海道は約７割（72.9%）、中部は約６割（61.0%）が不安を感じています。

【クマによる人身被害件数】※

（2025 年１月～12 月）

北海道	5
東北	146
関東	16
中部	41
近畿	7
中国・四国	2
九州	0

◆クマの被害に対する不安がありますか。



※ 環境省　「都道府県別/月別人身被害件数」（https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/effort12.html）
R06・07 年度をもとに算出

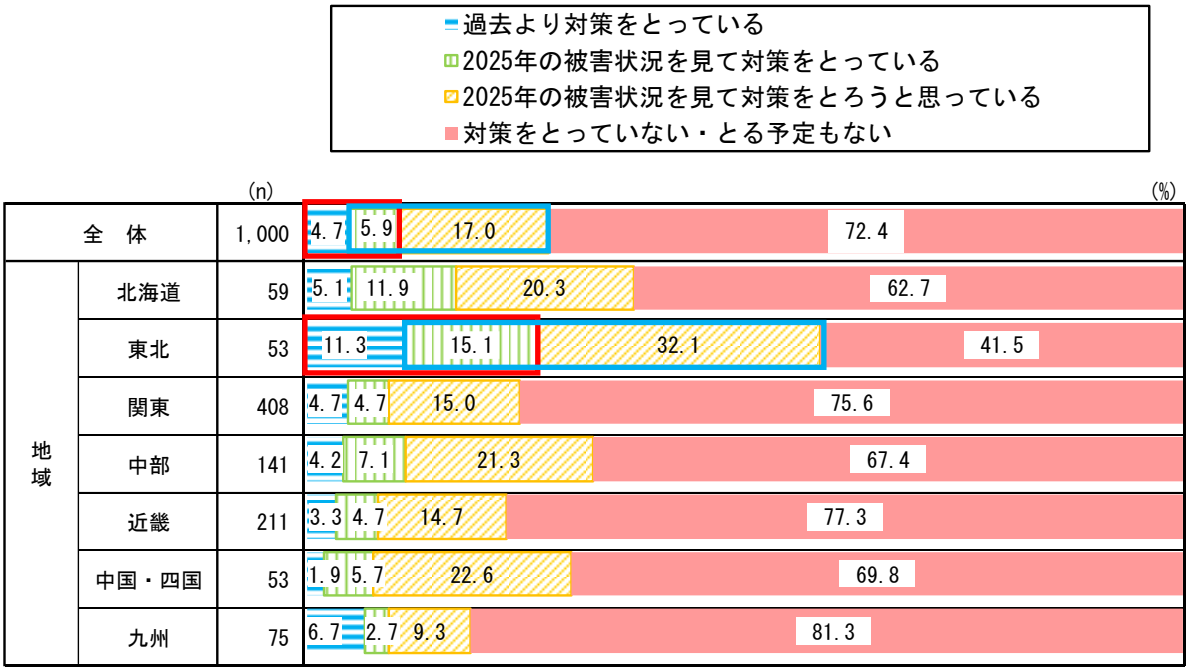
◆クマの被害に対し何か対策をとっていますか。

“対策をとっている”※1は約１割（10.6%）で、前問の“クマの被害に対する不安がある”（53.5%）よりもかなり低くなっています。将来的に不安を感じているものの、多くの方がまだ緊急性を感じていないように見受けられます。また、約２割（22.9%）が“2025 年の被害状況に影響を受けている”※2 という結果になりました。

“クマの被害に対する不安がある”が最も高かった東北（前問：77.3%）は、“対策をとっている” ※1が 26.4%、“2025 年の被害状況に影響を受けている” ※2は 47.2%と、いずれも地域別で突出した数値になりました。

※１：「過去より対策をとっている」、「2025 年の被害状況を見て対策をとっている」の計
グラフ 部分

※２：「2025 年の被害状況を見て対策をとっている」、「2025 年の被害状況を見て対策をとろうと思っている」の計
グラフ 部分



◆とっている対策・または今後とる予定の対策を教えてください。（複数回答可）

＊対象：前問にて「過去より対策をとっている」「2025 年の被害状況を見て対策をとっている」「2025 年の被害状況を見て対策をとろうと思っている」との回答者（n=276）

約５割（49.6%）が「クマの出没情報の収集」と回答しました。その他、２割以上となったのは、“行動”の「クマの行動が活発になる早朝・夕方の外出を控える」（24.3%）、「単独行動を控える」（22.8%）や、“住宅まわり”の「誘因物（果実・生ごみ等）の適切な管理」（30.1%）、「草刈り」（23.2%）でした。

行動が制限されるものとしては、日常生活における上記２つ（外出時間の変更・単独行動回避）の他、「旅行先の候補からクマ出没地域を外す」（15.9%）、「クマとの遭遇を懸念して登山を断念」（14.1%）、「キャンプを断念」（10.9%）、「旅行を断念」（10.9%）といった、レジャーへの影響も見られました。

位	対策	%
行動		
1	クマの出没情報の収集	49.6
2	クマの行動が活発になる早朝・夕方の外出を控える	24.3
3	単独行動を控える	22.8
4	クマに遭遇したときの対処法を学ぶ（情報収集含む）	16.3
5	旅行先の候補からクマ出没地域を外す	15.9
	近隣住民との連携・声掛け	
7	クマとの遭遇を懸念して登山を断念	14.1
8	保険の確認・見直し（傷害・車両等）	11.2
9	クマとの遭遇を懸念してキャンプを断念	10.9
	クマとの遭遇を懸念して旅行を断念	
住宅まわり		
1	誘因物（果実・生ごみ等）の適切な管理	30.1
2	草刈り	23.2
3	窓やドアの補強	12.7
4	フェンス・柵の設置	12.0
	監視カメラの設置	
6	電気柵の設置	5.4
対策グッズの購入		
1	鈴やラジオ（音）	17.8
2	忌避剤（スプレー・シート等）	12.3

行動の制限

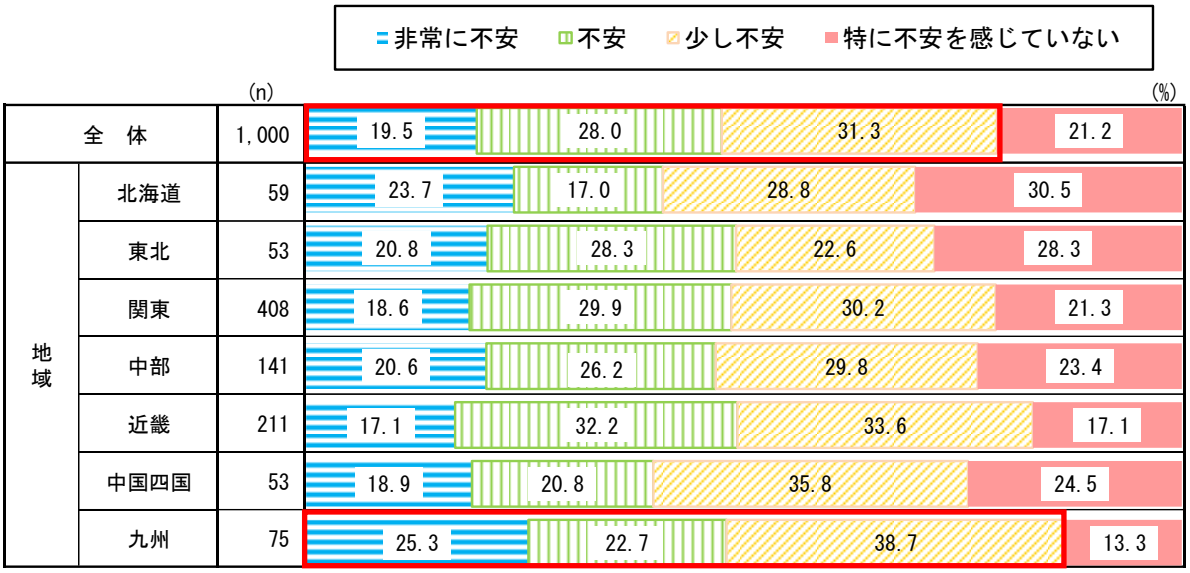
ｂ．火災への備え

2025 年は、２月の岩手県や３月の岡山県・愛媛県など、一年を通じて林野火災が発生し、甚大な被害をもたらしました。岩手県での被害を受け、2026 年１月から全国の市町村で「林野火災注意報・警報」の運用が始まっています。また、11 月には大分県で大規模な市街地火災が発生し、住宅密集地での被害拡大の様子は人々を震撼させました。

火災の原因は、多くは人的要因にあります。自身の行動や周囲の環境等、一人ひとりの防火意識の向上が求められています。

◆火災の被害に対する不安がありますか。

約８割（78.8%）が、“火災の被害に対する不安がある”（「非常に不安」（19.5%）、「不安」（28.0%）、「少し不安」（31.3%）の計）と回答しました。地域別では、2025 年の大分県の市街地火災の影響か、九州が最高（86.7%）になっています。



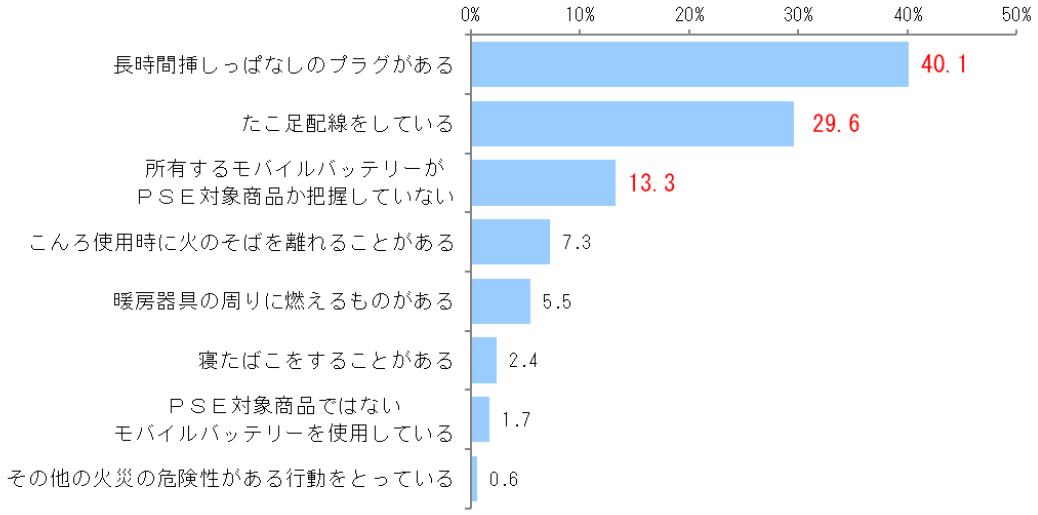
◆自宅における住宅火災発生の危険性と
あなたがとっている対策についてお答えください。（複数回答可）

社会では住宅の電気火災の増加が問題視されていますが、「長時間挿しっぱなしのプラグがある」は約４割（40.1%）、「たこ足配線をしている」は約３割（29.6%）を占め、火災発生リスクが放置されている様子がうかがえます。発火事故が多発しているモバイルバッテリーについても、「ＰＳＥ対象商品（日本の安全基準を満たしている）か把握していない」が１割超（13.3%）となりました。

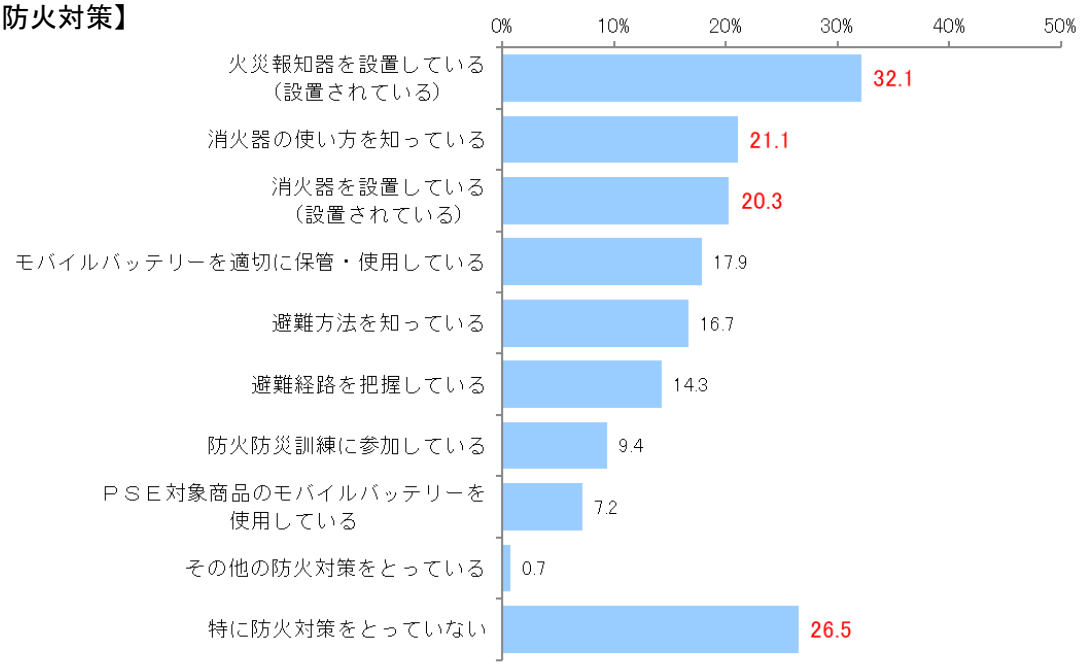
対策のトップは「火災報知器を設置している（設置されている）」（32.1%）で、以下は「消火器の使い方を知っている」（21.1%）・「消火器を設置している（設置されている）」（20.3%）と続き、初期消火につながる備えが２割を超えました。

一方、約３割（26.5%）は「特に対策をとっていない」と回答しています。

【火災の危険性】



【防火対策】

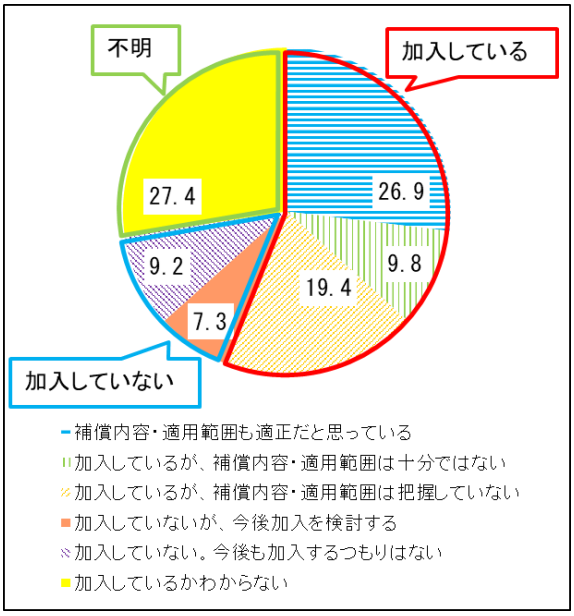


◆あなたの火災保険の加入状況を教えてください。

“加入している”は約６割（56.1%）ですが、補償内容・適用範囲を見ると、「適正だと思っている」は 26.9%のみで、「十分ではない」（9.8%）、「把握していない」（19.4%）の合計（29.2%）を下回りました。

一方、「加入していない」は 16.5%ですが、7.3%は加入を検討しています。

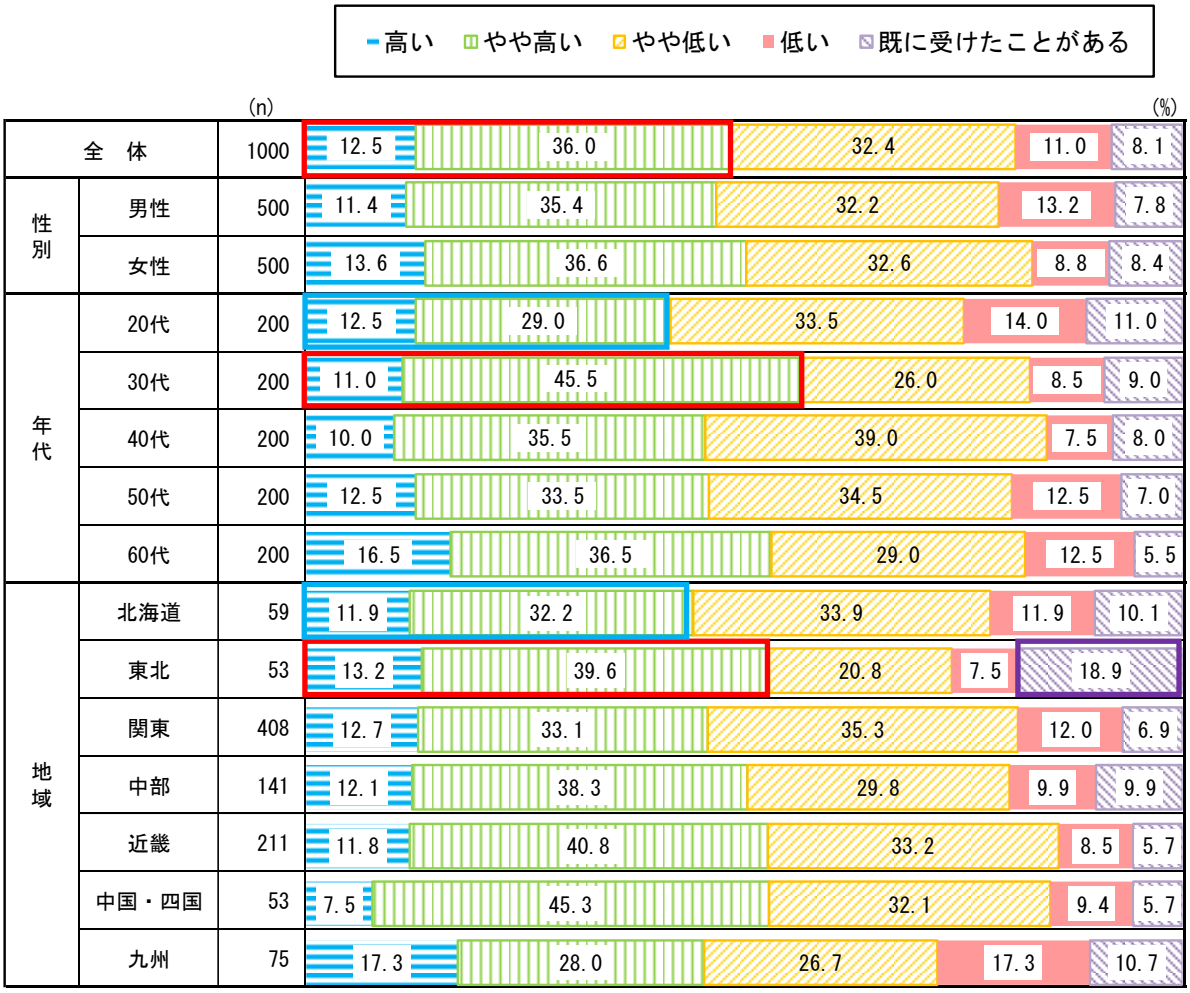
また、約３割（27.4%）は、「加入しているかわからない」という無関心な回答でした。



２．自然災害で被災する可能性

将来、自然災害により自身が被災（物理的・身体的・経済的・心的被害等）すると思うか、その可能性について聞いたところ、約５割（48.5%）が“高い”（「高い」（12.5%）、「やや高い」（36.0%）の計）と回答しました。“高い”は、年代別では30代（56.5%）が最高で、20代（41.5%）が最低となっています。また、東北は、“高い”（52.8%）と「既に受けたことがある」（18.9%）のいずれにおいても地域別で最高になっています。

◆将来、自然災害で被災（物理的・身体的・経済的・心的被害等）する可能性について、あなたの考えを教えてください。



３．最も備えが必要だと思う自然災害

11 年連続で１位になったのは「地震」（72.7%）で、以下は「大雨・洪水」（7.4%）、「台風」（7.0%）が続きました。

全体では前年から大きな変化はありませんが、「地震」については、青森県東方沖地震で被害を受けた北海道（14.2pt 増）・東北（9.2pt 増）の他、調査時に島根県東部の地震が発生したこともあり、中国・四国の数値（12.5pt 増）が上昇しました。「大雪・雪崩」は数値に大きな変化はないものの、順位は 10 位（0.6%）から６位（2.2%）に上昇しています。2025 年１月２月に発生した強烈な寒波による大雪の影響が考えられ、北海道にいたっては 11.3pt 増となっています。中部の「津波」は３位（6.4%）で、７月のカムチャツカ地震における広範囲の津波警報・津波注意報の影響がうかがえます。

◆あなたにとって最も備えが必要だと思う災害は何ですか。

（数字は%、○内数字は順位）

位	2026 調査	全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
1	地震	72.7	72.9①	71.7①	76.0①	67.4①	76.8①	71.6①	54.7①
2	大雨・洪水	7.4	3.4	7.5②	6.9③	8.5②	3.8	15.1②	16.0③
3	台風	7.0	0.0	1.9	7.6②	3.5	9.0②	1.9	17.4②
4	津波	3.1	1.7	1.9	1.5	6.4③	4.8③	3.8③	2.7
	噴火		6.8③	5.6③	2.9	3.5	1.9	0.0	4.0
6	大雪・雪崩	2.2	13.5②	3.8	1.0	3.5	0.5	3.8③	0.0
7	土砂災害	1.4	1.7	1.9	1.2	2.8	0.9	0.0	1.3
	落雷		0.0	3.8	1.2	2.2	0.9	1.9	1.3
9	その他	0.9	0.0	0.0	0.7	2.2	0.5	1.9	1.3
10	竜巻	0.8	0.0	1.9	1.0	0.0	0.9	0.0	1.3

【前年調査】

（数字は%、○内数字は順位）

位	2025 調査	全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
1	地震	72.4	58.7①	62.5①	75.8①	79.1①	79.3①	59.1①	49.2①
2	台風	8.1	2.1	4.2	7.2②	4.1②	10.1②	7.6	27.0②
3	大雨・洪水	5.8	8.7	6.9	4.6③	4.1②	4.2③	15.2②	9.5③
4	津波	4.7	10.9②	11.1②	2.6	3.4	3.2	12.1③	6.3
5	噴火	3.7	10.9②	11.1②	3.4	3.4	1.1	1.5	3.2
6	土砂災害	1.4	0.0	1.4	1.5	1.3	0.5	3.0	3.2
7	落雷	1.2	0.0	0.0	2.6	0.0	0.5	0.0	0.0
	竜巻		4.3	0.0	1.4	2.0	0.0	0.0	1.6
9	その他	0.9	2.2	0.0	0.7	1.3	1.1	1.5	0.0
10	大雪・雪崩	0.6	2.2	2.8	0.2	1.3	0.0	0.0	0.0

４．家庭の防災対策

ａ．防災対策費の理想と現実

家庭の年間の防災対策費は、十分な対策を行う場合に必要な費用（理想）が平均 27,908 円であるのに対し、実際の支出（現実）は平均 9,545 円で、“理想”と“現実”に 18,363 円のギャップが生じました。

また、前年から“理想”が 37,415 円減、“現実”が 6,811 円減と大幅に減少しました。前年は日向灘地震による「南海トラフ地震臨時情報」を背景に、”理想”も”現実”も過去金額から突出しましたが、南海トラフ大地震の発生確率は依然として高いにも関わらず、時間の経過により危機感が薄まってきているようです。

年代別の支出平均は、１位は 30 代の 12,321 円、最下位は 50 代の 7,168 円でした。前年から全ての年代で減少し、特に 50 代の減少幅（13,536 円）は大きくなっています。

地域別の１位は中部（12,150 円）です。前年の１位は「南海トラフ地震臨時情報」の影響が生じやすい近畿（20,947 円）でしたが、今回は５位（8,529 円）まで下がりました。また、東北は、2024 年以降減少傾向にあります（2024 年：20,655 円、2025 年 18,719 円、2026 年：9,836 円）。

◆この一年間で十分な防災対策を行う場合に必要となる費用（理想）と、
実際に支出された金額（現実）を教えてください。

（数字は円、〇内数字は順位）

【理想と現実の平均：全体】

	今回	前年
実際の支出　（　現　実　）	9,545	16,356
必要な費用　（　理　想　）	27,908	65,323
差　　額　（現実－理想）	▲18,363	▲48,967

【支出平均：全体・男女別】

	今回	前年	前々年
全 体	9,545	16,356	10,292
男 性	9,306	14,396	11,096
女 性	9,784	18,317	9,489

【支出平均：年代別】

位	年代	今回	前年	前々年
1	30 代	12,321	16,931③	9,727③
2	60 代	10,226	14,556④	13,808①
3	40 代	9,196	11,844⑤	8,386④
4	20 代	8,813	17,748②	7,424⑤
5	50 代	7,168	20,704①	12,118②

【支出平均：地域別】

位	地域	今回	前年	前々年
1	中部	12,150	20,699②	9,474④
2	関東	10,487	14,554⑤	10,384③
3	東北	9,836	18,719③	20,655①
4	北海道	8,867	8,517⑥	7,905⑥
5	近畿	8,529	20,947①	8,149⑤
6	九州	6,932	16,311④	4,715⑦
7	中国・四国	3,561	7,866⑦	12,262②

ｂ．実施している家庭の防災対策

１位の「特になし」は約４割（39.1%）を占め、前年から 5.7pt 増加しました。防災対策実施者は約６割（60.9%）です。上位３つの対策内容はいずれも約３割で、「非常用飲料水の備蓄（32.7%）」、「非常用持ち出し袋の準備」（30.5%）、「非常用食品の備蓄」（27.8%）となりましたが、前年より低い数値になっています。

◆ご家庭で実施している防災対策は何ですか。（複数回答可）

「特になし」（39.1%）を除く 60.9%が、防災対策に取り組んでいる

（数字は%、○内数字は順位）

位		今回	前年
1	特になし	39.1	33.4③
2	非常用飲料水の備蓄	32.7	41.8①
3	非常用持ち出し袋の準備	30.5	32.7④
4	非常用食品の備蓄	27.8	36.1②
5	ハザードマップ（被害予測地図）の確認	17.7	22.7⑥
6	家具などの転倒・落下防止策	17.5	21.5
7	ローリングストック	16.0	16.3
	避難場所・経路の確認		24.2⑤
9	寝室に懐中電灯やスリッパ等を用意	14.6	21.6
10	家族間での連絡方法の確認	11.3	16.4
11	家屋の耐震化	8.2	9.9
12	自治体や勤務先の防災情報メールに登録（キキクル以外）	6.3	7.9
13	防災訓練の実施・参加	5.4	6.1
14	線状降水帯予想を確認できるアプリ等	4.9	6.6
15	防災冊子の入手・購入	3.9	5.8
16	キキクル（危険度分布）の通知サービスに登録	1.6	2.8
17	その他	0.2	0.1

ｃ．今後、実施しなくてはいけないと思う防災対策

上位３つは「非常用持ち出し袋の準備」（53.5%）「非常用飲料水の備蓄」（51.8%）、「非常用食品の備蓄」（48.0%）ですが、いずれも「実施している家庭の防災対策」（前出４－ｂ）より 20pt 程度高い数値になっています。

６位の「特になし」は 28.3%で、防災対策未実施者の 39.1%（「実施している家庭の防災対策」（前出４－ｂ）が「特になし」との回答者）と 10.8pt の差が生じ、必要だと思いつつ対応できていないことがうかがえます。なお、年代別の「特になし」は 20 代が４割超（43.0%）で突出し、防災対策への意識の低さが表れました。

◆今後、あなたのご家庭で実施しなくてはいけないと思う防災対策は何ですか。
現在対策済みのものも含めて回答してください。（複数回答可）

（数字は%、○内数字は順位）

位		全体	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
1	非常用持ち出し袋の準備	53.5	44.5①	47.0③	50.0①	64.5①	61.5②
2	非常用飲料水の備蓄	51.8	37.5③	51.0①	44.0②	59.5②	67.0①
3	非常用食品の備蓄	48.0	37.5③	48.0②	38.5③	56.5③	59.5③
4	家具などの転倒・落下防止策	33.6	22.0⑤	32.5④	32.5④	35.5④	45.5④
5	寝室に懐中電灯やスリッパ等を用意	29.4	19.5⑥	28.0⑥	26.0⑥	32.5⑥	41.0⑤
6	特になし	28.3	43.0②	29.0⑤	30.5⑤	22.0	17.0
7	避難場所・経路の確認	27.8	19.0	23.0	23.0	34.0⑤	40.0⑥
8	ハザードマップ（被害予測地図）の確認	27.4	15.5	26.0	26.5⑥	31.5	37.5
9	ローリングストック	25.3	17.5	25.5	23.0	30.0	30.5
10	家族間での連絡方法の確認	24.6	16.0	22.5	22.5	27.0	35.0
11	家屋の耐震化	19.9	16.0	16.5	17.5	22.0	27.5
12	防災訓練の実施・参加	13.5	10.0	9.5	9.5	13.0	25.5
13	自治体や勤務先の防災情報メールに登録（キキクル以外）	11.9	7.5	10.5	11.5	13.5	16.5
14	線状降水帯予想を確認できるアプリ等	10.7	9.0	8.0	11.0	11.0	14.5
15	防災冊子の入手・購入	8.5	6.5	8.0	9.0	8.0	11.0
16	キキクル（危険度分布）の通知サービスに登録	7.0	6.0	5.0	7.5	8.5	8.0
17	その他	0.3	0.0	0.5	0.5	0.0	0.5

ｄ．防災対策未実施の理由

防災対策未実施者は全体では 39.1%（「実施している家庭の防災対策」（前出４－ｂ）が「特になし」との回答者）でしたが、年代別で見ると 20 代（52.0%）と 40 代（45.5%）が高くなっています。

未実施理由の１位は「特になし」（39.1%）で、20 代～40 代で１位になり、関心の低さが見られます。60 代は、未実施者（26.0%）は少ないものの、未実施理由として「つい先延ばしにしてしまう」（42.3%）・「面倒」（25.0%）が他年代よりも多く挙げられました。

◆防災対策を実施していない理由は何ですか。（複数回答可）

＊対象：実施している家庭の防災対策（前出４―ｂ）が「特になし」との回答者（391 人）

（数字は%、○内数字は順位）

位		全体	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
	n	391	104	79	91	65	52
	%	39.1	52.0	39.5	45.5	32.5	26.0
1	特になし	39.1	47.1①	43.0①	40.7①	27.7③	28.8②
2	何をしたらよいか分からない	30.7	27.9②	34.2②	34.1②	32.3②	23.1
3	つい先延ばしにしてしまう	26.1	15.4③	27.8③	22.0③	33.8①	42.3①
4	面倒	16.9	11.5	17.7	20.9	12.3	25.0③
5	お金がかかる	16.1	13.5	17.7	14.3	16.9	21.2
6	やっても無駄	2.0	1.0	0.0	3.3	6.2	0.0
7	その他	0.3	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0

ｅ．ライフライン停止時における在宅避難の対策

大規模な災害が発生すると、電気・水道・ガス・通信等にも多大な影響が発生します。ライフライン停止時における在宅避難の対策を「講じている」は約６割（63.2%）で、前年（63.1%）から変化はありませんでした。

また、「講じている」との回答者に在宅避難可能日数を聞いたところ「３日」が最多（34.2%）で、大規模災害の備えとして望ましい「７日」以上は15.8%でした。

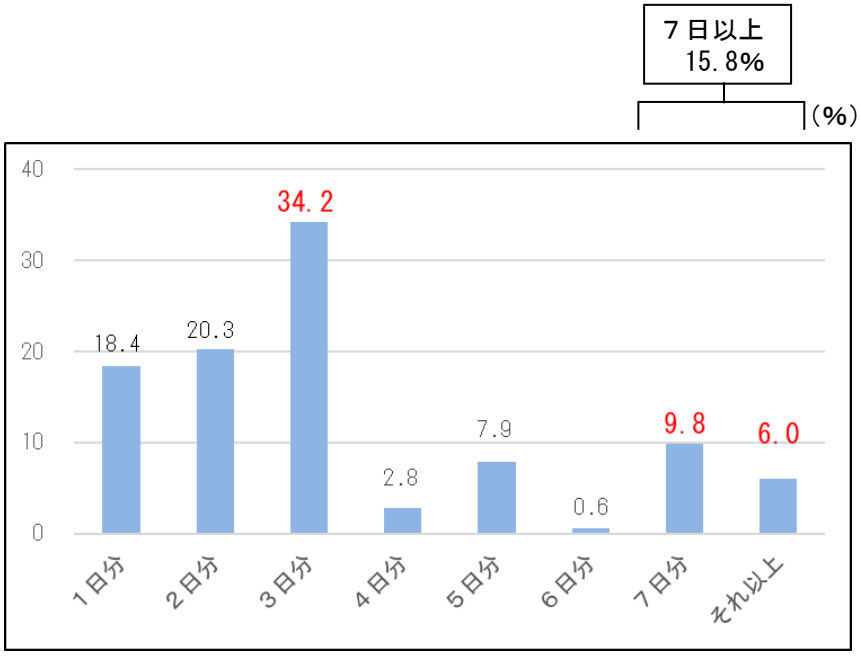
◆ライフライン（電気・水道・ガス・通信等）停止時における在宅避難の対策（食事・トイレ・熱源・情報等）は講じていますか。

（%）

	講じている	講じていない
今回	63.2	36.8
前年	63.1	36.9

◆現在の対策で、ライフラインが途絶えた状況下において、何日の在宅避難が可能ですか。

＊対象：ライフライン停止時における在宅避難の対策を「講じている」との回答者（n=632）



５．避難準備・避難行動

ａ．避難準備・避難を行うタイミング

警戒レベル（災害発生の危険度と取るべき避難行動を住民が直感的に理解できるよう、５段階のレベルで示された情報）をもとに避難および避難準備を行うタイミングを聞いたところ、“しない”という回答が約３割（32.9%）を占めました。

また、“避難”については、「警戒レベル４　避難指示（全員退避）」発令段階でも“しない”（「警戒レベル５　緊急安全確保」の段階で避難（16.4%）と「避難しない」（32.9%）の計）が約５割（49.3%）になっています。

◆災害時、自宅が危険な場所である場合、避難準備・避難を行う警戒レベルを教えてください。

（数字は%、○内数字は順位）

警戒レベル	状況	行動を促す情報	避難準備	避難
警戒レベル１	今後 気象状況悪化のおそれ	**早期注意情報** 災害の心構えを高める	7.5	5.3
警戒レベル２	気象状況悪化	**大雨・洪水・高潮注意報** ハザードマップ等で避難行動を確認	10.2	4.1
警戒レベル３	災害のおそれあり	**高齢者等避難** 危険な場所から高齢者等退避	27.0	12.1
警戒レベル４	災害のおそれ高い	**避難指示** 危険な場所から全員退避	17.0	29.2
警戒レベル５	災害発生または切迫	**緊急安全確保** 命の危険　直ちに安全確保！	5.4	16.4
避難準備または避難しない	－	－	32.9	32.9

※警戒レベル１～２は気象庁発表、３～５は市町村発令

「警戒レベル４　避難指示（全員退避）」が発令されても“避難しない”が 49.3%

ｂ．避難する場所

災害時、自宅が危険な場所である場合の避難先は、「市町村指定の避難場所・避難所」が８割超（82.3%）で圧倒的１位でした。

◆自宅が危険な場所である場合、あなたが避難する場所を教えてください。（複数回答可）

＊対象：避難を行うタイミング（前出５－ａ）で「避難しない」以外の回答者（n=671）

位	避難する場所	%
1	市町村指定の避難場所・避難所	82.3
2	車中	22.2
3	ホテル等の宿泊施設	14.3
4	親戚宅	12.4
5	知人宅	4.3
6	その他	1.0

ｃ．避難しない理由

災害時、自宅が危険な場所にあっても「避難しない」との回答者（329 人）に理由を聞いたところ、１位が「自宅に避難させてくれるような、親戚・知人がいない」(40.1%)、２位が「自宅に留まる方が身体的・精神的負担が小さい」(38.9%)、３位が「お金がかかる（ホテルや宿泊施設での避難)」(17.6%）でした。

避難する場所（前出５－ｂ）として８割超（82.3%）が「市町村指定の避難場所・避難所」を挙げていましたが、避難しない理由の４位～６位には「トイレへの不安（衛生面・使いやすさ)」(12.8%)、「プライバシーの確保が困難」(11.6%)、「お風呂への不安（衛生面・使いやすさ)」(9.7%)、「暑さ・寒さ対策に不安を感じる」(9.7%）が入り、避難所運営の課題が残る結果となりました。

◆災害時、あなたが避難しない理由を教えてください。（複数回答可）

＊対象：避難準備・避難を行うタイミング（前出５－ａ）で、いかなる警戒レベルにおいても「避難しない」との回答者（n=329）

位	避難しない理由		%
1	自宅に避難させてくれるような、親戚・知人がいない		40.1
2	自宅に留まる方が身体的・精神的負担が小さい		38.9
3	お金がかかる	ホテルや宿泊施設での避難	17.6
4	トイレへの不安（衛生面・使いやすさ）	市町村指定の避難場所・避難所での避難	12.8
5	プライバシーの確保が困難	市町村指定の避難場所・避難所での避難	11.6
6	お風呂への不安（衛生面・使いやすさ）	市町村指定の避難場所・避難所での避難	9.7
	暑さ・寒さ対策に不安を感じる	市町村指定の避難場所・避難所での避難	
8	必要な支援が受けられるか心配		8.5
9	犯罪やトラブルに巻き込まれないか心配	市町村指定の避難場所・避難所での避難	7.9
10	ペット（犬、猫等）を連れていけない		7.0
11	感染症対策に不安を感じる	市町村指定の避難場所・避難所での避難	6.7
	安全に避難できるホテルや宿泊施設を把握していない	ホテルや宿泊施設での避難	
13	馴染みのない場所に行くのが不安		6.1
14	避難時のホテルや宿泊施設の空き状況が心配	ホテルや宿泊施設での避難	5.8
15	自宅不在時の盗難等の被害が心配		4.3
16	車（車中避難や移動手段としての）がない		3.0
17	その他		2.1
18	小さい子どもや要介護者（高齢者や障がい者）を連れて避難できない		1.8

以上